

WCRP

5

2024

May

No. 535

World Conference of Religions for Peace Japan



いのちの森づくりプロジェクト「タケノコ掘り de 森づくり」4月20日参加のみなさま

こころの扉—「バランスを整え世界を『健康』に」 利根康教	2
『現地学習会ならびに人身取引防止に向けた諸宗教の祈り』 実施	3
『声なき声と共に歩むために』 女性部会が難民支援施設を訪問	4
平和研究所 合宿	5
能登半島地震 現地視察報告	6
いのちの森づくりプロジェクト「タケノコ掘り de 森づくり」 開催	7
平和のためのAI倫理会合（仮称）開催	8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動	8

「バランスを整え世界を『健康』に」

ある言葉を辞書で調べると「日光のあたらないところ」「人に知れないもの」「庇護・恩恵」などと記されています。「陰」です。「日陰」「陰ながら」「お陰」など、他の言葉と組み合わせるとその意味がよく分かります。また、音読みすると「時間（＝光陰など）」を表すなど、一文字でいろいろな意味を持つ実に不思議な言葉です。「陰」と聞くと、多くの人がネガティブなイメージを持つにも拘わらず、たった一文字「お」をつけると一瞬にしてポジティブで奥深い言葉へと変換されます。世界の言語と比較しても、「二音」加えるだけで、ここまで意味が変わる言葉は非常に珍しいことのようにです。日本語では「お陰」

WCRP日本委員会
監 寒 川 神 社 宮 司

利根康教



に留まらず、「お陰様」と一層の尊敬の念をもって表現されるのが大半です。

相模國一之宮・寒川神社は全国唯一の八方除の守護神として日々多くの参拝者をお迎えしておりますが、八方除（方位除）信仰の考え方の基になっているものの一つが「陰陽学説」です。これによれば、万物は「陰」と「陽」という対立する二つの原理によって成り立ち、その相互作用によって変化するとされています。例えば、「夜と昼」「女性と男性」「水と火」「黒と白」などが陰陽の対になるのですが、「陽＝良いもの」「陰＝悪いもの」という構造ではなく、互いにバランスを取りながら絶えず流動的に

変化するので切り離して考えることはできません。「陰」がなければ「陽」も存在し得ないのです。古来、日本人はこのことを当然のように知っており、「陰」にこそ重要な作用があることを悟っていたのではないのでしょうか。だからこそ、「陰」も「陽」と同様に敬い、「お陰様」という何とも奥深い言葉が存在するのかもしれない。

世の中に溢れる諸問題は、それが「善」なのか「悪」なのか、「正しい」のか「正しくない」のか明確にできないことが大半です。それを突き詰めようとすれば当然争いが起こるのだと思いますが、この考えすらも「正しい」と言い切れるものでもありません。

文化が違えば、宗教も違い、当然平和に対する解釈も違います。要は多種多様な考えが混在すること自体は、ごく自然な前提条件として許容した上で、「意識を如何に束ねていくか」「如何にバランスを整えていくのか」ということが肝要だと思っております。

東洋医学においては、体内の陰陽のバランスが整っている状態のことを「健康」といい、逆にバランスが乱れている状態のことを「病気」と呼びます。世界に置き換えると、環境破壊や紛争などが各地で発生しており、い

わば体中が病に蝕まれているとも言えます。神社は、宗教施設であると同時に、地域の人々にとつての「心のよりどころ」でもあります。常に地域の皆さんと共にあった神社は、今話題の「ソーシャルキャピタル（社会関係資本）」としての中心的な役割を古くから担ってききました。日本人の「お陰様」「お互い様」という考え方と、日本の宗教が持つ「ソーシャルキャピタル」としての性格。世界平和実現に向けて、日本が果たせる役割は大きいのではないのでしょうか。

陰陽は「月日」と解することもでき、この二文字を組み合わせると「明」となります。明日は必ず明るくなる

人身売買禁止タスクフォース 『現地学習会ならびに人身取引防止 に向けた諸宗教の祈り』実施

人身売買禁止タスクフォースは3月5日、大恩寺ベトナム寺院（埼玉県本庄市）にて『現地学習会ならびに人身取引防止に向けた諸宗教の祈り』を行った。大恩寺ベトナム寺院住職のティック・タム・チー師は、2023年7月に同タスクフォースが実施したオンライン学習会にて発題者を務め、困窮するベトナム人技能実習生の現状や仏教の教えに基づいた支援活動を報告した（会報2023年8月号参照）。オンライン学習会を受けて、実際に大恩寺を訪問し、タム・チー師との対話のみならず、技能実習生との交流や人身取引によって命を落とされた方への慰霊、人身取引防止のための祈りを捧げることを目的とし、5人のタスクフォースメンバーが参加した。



祈り

タム・チー師は、7歳でベトナムにて仏教僧として出家し、2000年に日本に留学、国際仏教大学大学

院にて博士課程（仏教学）を修了。2018年に大恩寺を開山した。大恩寺は不当解雇やトラブル等で行き場がない在日ベトナム人や技能実習生の「かけこみ寺」となっている。

はじめにタム・チー師の案内で、大恩寺全体を見学。抛り所がなく駆け込んできた在日ベトナム人や技能実習生たちが寝泊まりしている本堂やガレージ、共有するキッチンなどは非常に整理されていた。これは、代わる代わる助けを求める人たちが来る環境下で、技能実習生たちが職場で教わる5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）を実践し、日本式の整理方法に慣れることや、必要なものがどこにあるか誰もがわかるよう配慮されているからだ。

大恩寺内の畑では農薬を使わずに野菜を栽培し、自給自足の精神を培うとともに、近隣住民にも配布し、利他の精神や地域との調和を体現していた。

『人身取引防止に向けた諸宗教の祈り』では、まずタム・チー師を導師とし、タスクフォースのメンバーも共に礼拝を行った。その後、本タスクフォース責任者の宍野史生氏（扶桑教管長）、大西英玄氏（音羽山清水寺成就院住職）、加瀬育代氏（立正佼成会総務部渉外グループ）、小宮山延子氏（カトリック）、橋本伸作氏（大本東京本部東京宣教センター長）がそれぞれの様式で祈りを捧げた。



交流会

その後、ベトナムコーヒーやお菓子、フォアもてなしを受け、タム・チー師と技能実習生を交えて交流会を行った。タム・チー師は、技能実習生たちは家族の生活が少しでも楽になるよ

う日本に働きに来たにもかかわらず、病氣、事故、自死等によって遺骨となって祖国へ戻る若者たちが絶えない状況に非常に心が痛む、と語った。同時に、日本社会への恨みとならないよう、菩薩行としての救済を続けていくと述べた。

タスクフォースでは「宗教者としての自分自身を顧みながら、学ばせていただくことがたくさんあった」「タム・チー師は自死や暴力等を目の当たりにしながらも恨みや怒りの感情を感じさせなかった」「いきいきと活動している姿に感銘を受けた」などの感想があった。

同タスクフォースは、7月30日の「人身取引反対世界デー」によせて、7月27日に公開学習会を実施予定（東京・上野）。詳細は6月中旬にHP等で案内します。

『声なき声と共に歩むために』 女性部会が難民支援施設を訪問

女性部会は3月7日、さまざまな宗教コミュニティが持つ施設や設備を活かした難民受け入れのあり方を考えるために、鎌倉にあるNPO法人アルペなんみんセンターを訪問した。

同センターは、2020年4月から鎌倉のイエズス会修道院を借り受けて、最大30人の難民が居住できる施設を運営する。また、難民への緊急支援、定住サポート、難民の地域活動への参加、難民問題の啓発活動などを行っている。2023年4月から、カトリック修道会「聖霊会」と連携し、アルペなんみんセンター小金井を開設して



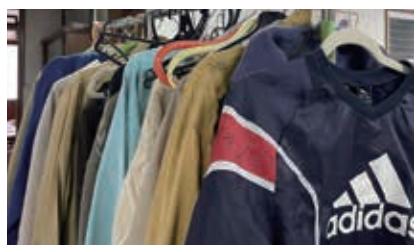
有川事務局長

いる。
センター事務局長の有川憲治氏は、2023年度の女性部会主催「いのちに関する学習会」で発題者を務め、同セン

ターの取り組みや活動を報告した（会報2023年11月号参照）。今回の訪問は、日本に逃れて来た難民の状況を知り、センターの実際の受け入れを学ぶことが目的。

有川氏はセンター設立までの経緯を振り返り、2004年に難民受入の取り組みを視察したスペインとイタリアで、本人が難民であることを申告すればすぐに宿泊できる体制が整っていることに衝撃を受けたと話し、日本でのシェルター開設を目指したと述懐した。

センターには子どもから大人まで、国籍が異なる難民が共同生活を送っている。一人ひとりのニーズに対応し、地元コミュニティを巻き込みながらセンターが運営されている。



アルペショップで並べられた衣類



地元のサポーターの方（左）



話を伺う女性部会委員ら

女性部会は、センター内で定期的に開催される「アルペショップ」を見学した。これは、センターに集められた支援物資の中から居住者が生活に

必要な衣類や物品を選び、クーポンと交換するしくみ。このやりとりを通じて、居住者と支援者とのコミュニケーションの場になっている。また、入居者の男性から、難民として日本に逃れてこなければならなかった経緯やセンター入居までの過酷な経験などを聞いた。

女性部会委員からは、「なんみんセンターの存在が難民の砦になっていると感じた」「祈りの場の提供、心が安らげるための何らかの提供を宗教者としてできるのではないか」「法律の専門家、国の政策立案者、市民、NGO、そして宗教関連など、みんなが協力し合わないと支援は実現できないと感じた」などの感想が寄せられた。

平和研究所 合宿

平和研究所の合宿が3月29、30の両日、静岡県熱海市のホテルで行われた。藤本頼生所員（國學院大學教授）、西原廉大副所長（立教大学総長）、松井ケティ所員（清泉女子大学教授）がそれぞれ研究発表をし、最後に所員会議が開かれた。

藤本所員は、『鏡と正直——神道の徳目と言葉にみる人間性の教育』をテーマに発表。神道で大切にしている言葉や徳目を解説しつつ、神道の教育的側面から平和に貢献できる理念や思想は何かということに言及した。この中で藤本所員は、「神道では正直・清浄（明浄正直）を徳目として尊ぶ」とし、文武天皇即位の宣明（697年）や光仁天皇即位改元の宣命（770年）などの中に「正直・清浄」の徳目が記されていると語った。また、「慎みの心と謙虚さ」こそが神の道であり、「誠にいたる道」であると強調した。そして、神の道は特殊な道ではなく、日々の行いが神の「御心」に叶っているかどうかを反省し、慎みの心を持って感謝の心で精進していくものであると述べた。

神道で神の御霊代としても用いられる「鏡」については、「まさに鏡が神道の徳目である『明浄正直』の象徴として考えられており、『明らかなもの、清らかなもの、心を映し出すもの』だ」と語った。

そのうえで、「先祖が鏡をもって神を祀ったときの心象の奥にあるもの、古代の人びとの思索を考えることが、平和を求める人間性の教育にもつながるのではないか」と述べた。

西原副所長は、『聖書における「天幕」理解と「人間性の回復」』をテーマに発表した。

まず、ヘブライ聖書に見られる「天幕」とは移動式の住まいであり、かつ神と民が出会う場でもあったことから、「神の臨在に密接にかかわる重要な要素」と述べた。そして『出エジプト記』においてモーセやイスラエルの民がパレスチナに定着するまで荒野において「天幕」生活を続けたのは、「神の導きと約束」に根拠があったと言える」と語った。

しかし、「臨在の幕屋」としての「天幕」は、ソロモン王の治世以降、決定的に変質したと指摘。『列王記』には臨在の幕屋が神格化していくさまがはっきりと描かれている」として、「民衆と共にあり、民衆と共に移動する神を、荘厳な神殿の中に閉じ込めてしまった。神を自らの王権を維持する『守護神』に閉鎖した」と述べた。

その後、西原副所長は新約聖書におけるイエスの「神殿批判」について詳述。イエスは「エルサレム神殿以外に救いなし」と認識するイスラエル社会、支配階級に対して激烈な闘争をしたとして、「神が神殿を求め

ず『天幕』を求めたように、イエスはただの一度も『教会を建てろ』と指示したことはなかった。イエスは決して『定住』しなかった。常に苦難と痛みの中にある民の間を『流浪』していたのではないだろうか」と、イエスの「天幕性」を示した。そして「すべての者の『人間性の回復』を究極的に求める『天幕』こそが、本来、神から命じられた教会の象徴ではないだろうか」と述べた。

松井ケティ所員は、『諸宗教における人間性の教育を語る——他者の痛みへの共感を育むための3つの役割』をテーマに発表した。

第1の役割は「宗教者の役割」で、「愛」はキリスト教の教えの中でも極めて重要な教理であり、「愛」なしには相手の気持ちや痛みを想像できないと強調。そして宗教的視点を取り入れることで「他者への敬意」が築けると語った。

第2の役割は「教育の役割」。それは、さまざまな問題を暴力を用いず建設的に解決するスキルを習得する、国際水準である人権・ジェンダー・人種に対する敬意と平等を理解し実現できる、文化の多様性を認めるようになることだと述べた。

第3の役割は「家族の役割」で、子どもの自己肯定を育み、対話ができる親子関係を築くことが望まれるとしたうえで、子どもの自尊心を高めることで自信が生まれ、挫折を乗り越えられるようになると語った。

能登半島地震現地視察報告

WCRP日本委員会事務次長 山越教雄

4月21日から23日まで視察を行った。

21日は、志賀町の富来（とき）活性化センターを訪ねた。センターはこの地域の被災者支援を担っている。最大で170人いた避難者は、現在40人ほどだという。隣接するゲートボール場には数十棟の仮設住宅が建ち並んでいた。

このセンターに中部臨床宗教師会が開設している傾聴カフェを訪ねた。志賀町在住の臨床宗教師・松本二三秋氏が主宰する「夢小屋23」が主催し、中部臨床宗教師会が共



立ち寄る被災者に耳を傾けるボランティア

催、名古屋・三重・岐阜の3チームが交替で、月1回ほど開いている。この日は、岐阜の6人のスタッフで運営していた。当センター

に避難している方や被災関係の手続きに来た方など70人ほどがカフェに立ち寄っていた。住宅や生業の再建の不安を語る人や墓じまいの相談をされる人など、さまざまな声に耳を傾けていた。

22日は、金沢市内にNPO法人石川バリアフリーセンターに坂井さゆり理事長を訪ねた。普段は、「行きたいところに行けたらいいな」をコンセプトにバリアフリーな世の中の実現のための情報発信などを行っているという。地震発生を受け、一般社団法人障害攻略課と一般社団法人Smart Supply Visionと連携、被災した障がい者に向けて、当事者が本当に必要としている物資を過不足なく、必要数届けるためのシステム【届け】を開発、行政の支援では行き届かない物資の供給活動を始めた。被害の大きかった奥能登の2市3町（珠洲市、輪島市、能登町、穴水町、志賀町）の117施設に、1月だけでトラック147台分の物資を届けたという。

次に、能登ルネッサンスプロジェクト（通称…のとルネ）の山崎香織代表に電話取材。のとルネは、2018年に七尾市で開催された100人女子会を契機に、能登の魅力を発信する活動を行っている団体。今回の



提供されるアレルギーなしの食材

震災を受け、アレルギーやベジタリアン、ハラールの方など、食事に特別な配慮を必要とする方々への情報発信や食事・食材の提供を行ってきた。現在でも避難所などで提供される「普通の食事」がとれない方々のために食材の提供事業などを行っているという。

23日は、再び富来活性化センターを訪ね、昼食の炊き出しに協力。今回の対象者は被災者ではなく、被災者の方々をケアしてきたセンターの職員の方々だった。主催は、真宗大谷派中部教区に所属するボランティア、アグループの一つ。50食のカツ丼、デザート、コーヒーなどを提供した。

◇ WCRP日本委員会に、4月30日までに645万7743円の寄付が寄せられました。今後は、今回の視察を受け具体的な支援を模索してゆきます。

いのちの森づくりプロジェクト 「タケノコ掘り de 森づくり」開催

気候危機タスクフォースは、4月20日、27日の両日、埼玉県所沢市にある里山を会場に「タケノコ掘り de 森づくり」を開催、日本委員会関係者、家族など多くの子どもたちが参加した。

同タスクフォースは2017年から、地元「堀口天満天神社周辺緑地を守る会」の協力を得て、約1万㎡の山林で「WCR



祠への安全祈願からスタート

Pいのちの森づくり」プロジェクトとして里山再生事業に取り組んでいる。これまで、堆積竹の焼却や園路整備、植樹と定期的な下草刈りを行



うことによって、本来の里山の姿を取り戻しつつある。タケノコを掘るという作業を楽しみながら取り組んでもらうことにより、森の整備を行うことができる。

また、この森づくりを通して、次世代を担う青少年の情操教育や環境意識の高揚を図ることをめざしている。

参加者は春の陽気の中でタケノコ掘りに汗を流し、スコップや鍬を使って何本ものタケノコを掘り上げた。



27日参加のみなさま

タケノコを掘る際、「根が固いなあ」「いっぱい採れた!」と元気な声が里山にこだました。
今回の「タケノコ掘り」では、両日合わせて約70人の参加者で約80本のタケノコを掘り上げた。

平和のためのA I倫理会合(仮称)開催

WCRP日本委員会は、教皇庁生命アカデミー、アブダビ平和フォーラム、イスラエル諸宗教関係首席ラビ委員会と共に、「平和のためのA I倫理会合」を左記の通り開催する。

現在、A I(人工知能)、ロボティクス、量子コンピュータ等に代表されるテクノロジーが急激に発達し、私たちの生活に大きな影響を与えている。さらに、武器への転用問題など、平和の諸問題との関係において様々なインパクトをも引き起こしている。この会合は、キリスト教、ユダヤ教、イスラーム、そしてアジアの様々な宗教指導者が集い、この問題への提言を広く国際社会に投げかけ、今後のA Iに関する国際的なルールづくりに、宗教的・倫理的な観点を組み込むことを目的とする。

日程…2024年7月9日～10日

主なプログラム…

7月9日(火)

【会合】 9:00～17:30 / 広島国際会議場 地下2F「ダリア」

A Iリスクなどについて科学やテクノロジーの専門家や宗教者による議論

7月10日(水)

【会合】 9:00～10:00 / 広島国際会議場 地下2F「ダリア」

【署名式】 10:45～12:00 / 広島平和記念

公園「平和の鐘」付近

※オンライン配信あり

※今後プログラムの変更がある場合はWCRP日本委員会ホームページ(wcrp.org)にて掲示

※オブザーバー参加の申し込みを6月上旬

にWCRPホームページに掲載予定

今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し新しい熟語を作ります。

◆ ◆ ◆ 手具(テク) ◆ ◆ ◆

今年も、いのちの森でタケノコ掘りができました。きれいに掘り出すためには、ちょっとしたテクが必要です。頭ではわかっているのですが、うまくいかず、もどかしい。

WCRPの活動

《5月》

- 7日 ストップ！核依存タスクフォース第1回会合(オンライン)
- 16日 総合企画委員会(オンライン)
- 17日 災害対応タスクフォース第1回会合(オンライン)
- 20日 平和研究所第2回所員会議・研究会(東京・普門メディアセンター／オンライン併用)
- 20日 気候危機タスクフォース「いのちの森プロジェクト」森の整備作業(埼玉・所沢) *30日も実施
- 21日 女性部会第1回委員会(オンライン)
- 22日 気候危機タスクフォース第1回会合(東京・普門メディアセンター／オンライン併用)

掲載内容の無断転載を禁ず。